
第 1 章

現況と課題

- 1－1．上位・関連計画の整理
 - 1－2．うるま市の現況
 - 1－3．アンケート調査結果の概要
 - 1－4．現況・アンケートから見る都市の改善点と方向性
 - 1－5．都市づくりの課題
 - 1－6．まちづくりの方向性
-

1-1. 上位・関連計画の整理

1. 上位・関連計画

本計画の策定にあたっては、国や県、本市における各種上位・関連計画と整合を図り策定しています。

主 体	計 画 名 称	策 定 年
国・県等	新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画	令和 4 年 5 月
	第 5 次沖縄県国土利用計画	平成 30 年 3 月
	中部広域都市計画「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」	令和 4 年 11 月
	沖縄ブロック新広域道路交通ビジョン・新広域道路交通計画	令和 3 年 3 月
	沖縄県広域緑地計画	平成 30 年 3 月
	東海岸サンライズベルト構想	令和 3 年 3 月
市	第 2 次うるま市総合計画後期基本計画	令和 4 年 3 月
	第 2 次うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略	令和 2 年 3 月
	第 2 次うるま市国土利用計画	令和 3 年 3 月
	うるま市交通基本計画	平成 31 年 3 月
	うるま市総合交通戦略	令和 2 年 3 月
	うるま市道路整備プログラム	令和 4 年 6 月
	うるま市みどりの基本計画	平成 22 年 3 月
	うるま市景観計画	平成 29 年 6 月
	うるま市公園整備プログラム	平成 27 年 3 月
	第 2 次うるま市観光振興ビジョン	平成 29 年 3 月
	うるま市国土強靱化地域計画	令和 4 年 3 月
	うるま市地域防災計画	平成 27 年
	うるま市墓地整備基本計画	平成 22 年 3 月
	うるま市公共施設等総合管理計画	平成 29 年 3 月
	うるま市産業振興計画	令和 4 年 3 月
	うるま市産業基盤整備計画基本計画	令和 2 年 3 月

1-2. うるま市の現況

(1) 本市の概要

- ・本市は、平成17年4月に具志川市・石川市・勝連町・与那城町の2市2町の合併により誕生しました。
- ・本市の総面積は87.02 km²で、沖縄本島中部の東海岸に位置し、西は沖縄市、北は恩納村と金武町に隣接し、県都那覇市から約25kmの距離にあります。また、東に金武湾、南に中城湾の両湾に面し、両港湾は国の重要港湾に指定されています。そして、有人・無人を含めて10の島々があり、伊計島・宮城島・平安座島・浜比嘉島・藪地島の5島は海中道路や架橋によって結ばれています。



図 位置図

(2) 人口・世帯数の推移

- 人口・世帯数ともに増加傾向、平均世帯人員は減少傾向
- 令和12年までは人口増加、その後は減少傾向となる予測（国立社会保障・人口問題研究所に基づく推計（以下同様））
- 令和27年には老年人口は3割を超える

<人口・世帯数の推移>

- ・本市の人口と世帯数は、令和2年時点で125,303人、48,163世帯と、ともに増加傾向
- ・1世帯当たりの平均世帯人員は減少傾向にあり、核家族化や少人数世帯の増加が進む

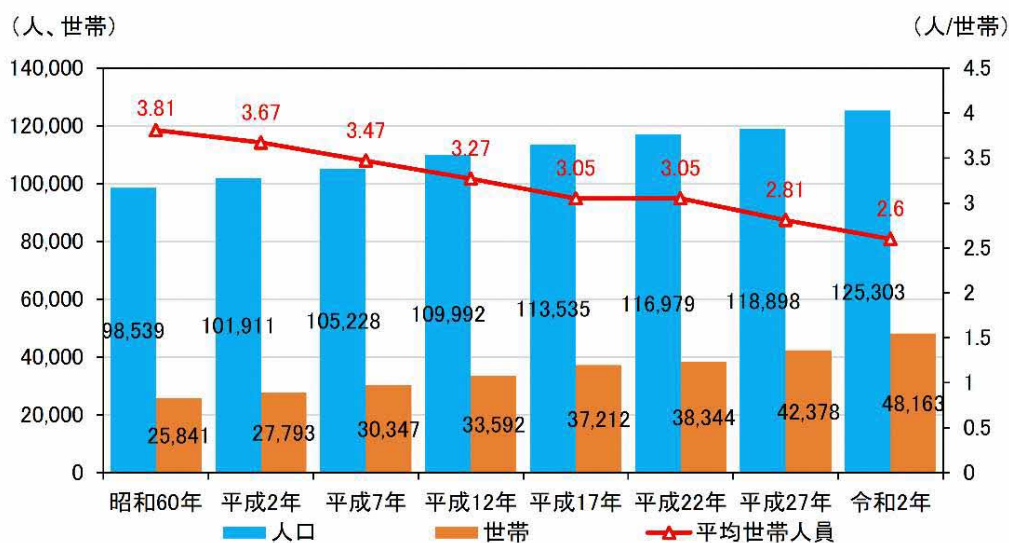


図 人口、世帯数、平均世帯人員の推移 [資料：国勢調査（令和2年度）]

<将来人口動向>

- ・国立社会保障・人口問題研究所によると、将来人口は、令和12年まで人口は増加傾向にあるものの、その後は減少傾向
- ・令和27年には老年人口は38,197人と全体の3割を超え、更なる少子高齢化の進行が予測

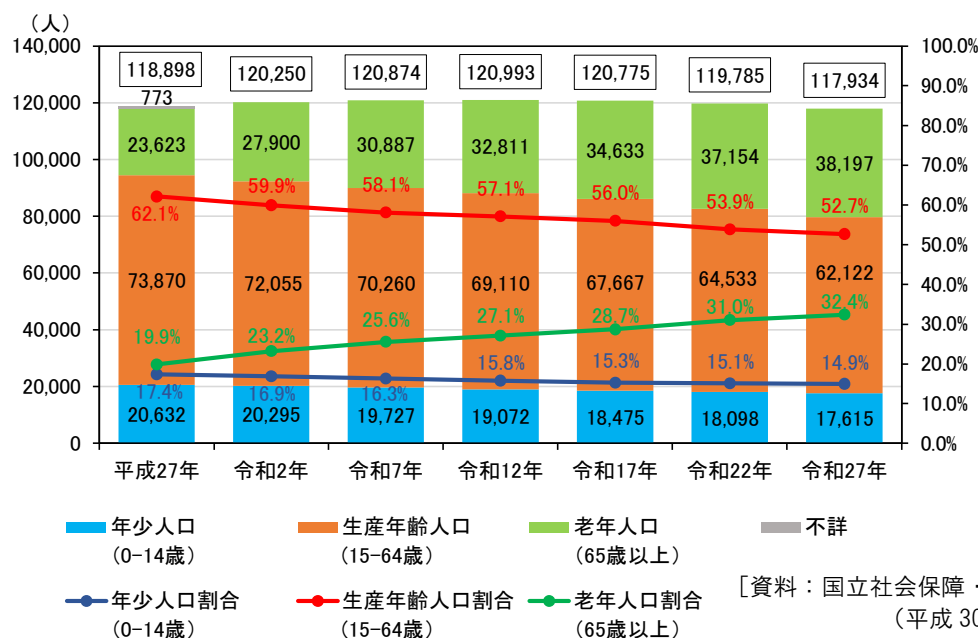


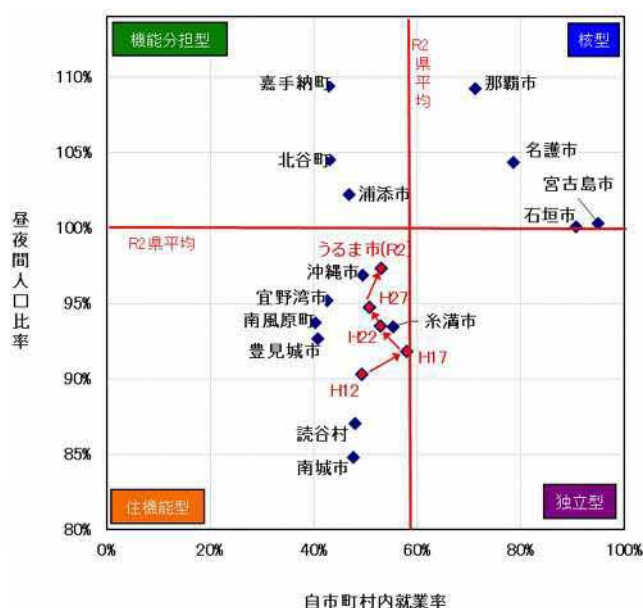
図 年齢三区分別人口の推移

(3) 都市の性格

- 県中部圏域における周辺都市のベッドタウンとして機能する「住機能型」
- 近年は昼夜間人口比率も上昇傾向

- ・本市の昼夜間人口比率、自市町村内就業率を沖縄県内の主要都市と比較すると、県の平均値以下となっており、本市は周辺都市のベッドタウンとして機能する「住機能型」の都市
- ・昼夜間人口比率は上昇傾向にあり、核型・機能分担型に近付いている傾向

<県内主要都市の自市町村内就業率・昼夜間人口比率>



核型

自市内で働く人が多く、就業・通学者を含めた昼間の人口が多い都市であり生活圏における中心都市として機能

独立型

自市内で働く人は多いが、昼間の人口は多くない都市であり、1都市である程度独立した生活圏を形成

住機能型

自市内で働く人が少なく、夜間の人口が多い都市であり、周辺都市等のベッドタウンとして機能

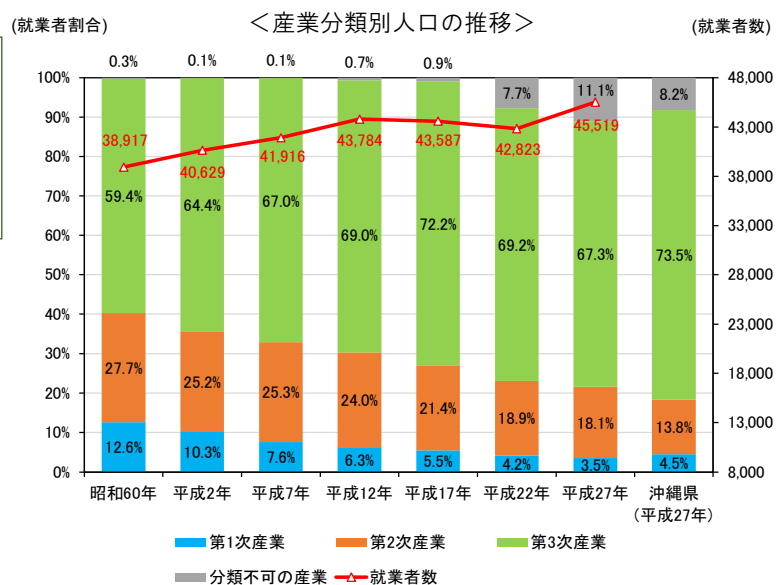
機能分担型

自市内で働く人は少ないが、昼間の人口が多い都市であり、職・教育等の機能に特化

〔資料：国勢調査（令和2年度）〕

(4) 産業

- 15 歳以上就業者数は 45,519 人 (H27) であり、増加傾向で推移
- 第2次産業の就業者数の比率は、県平均を上回る



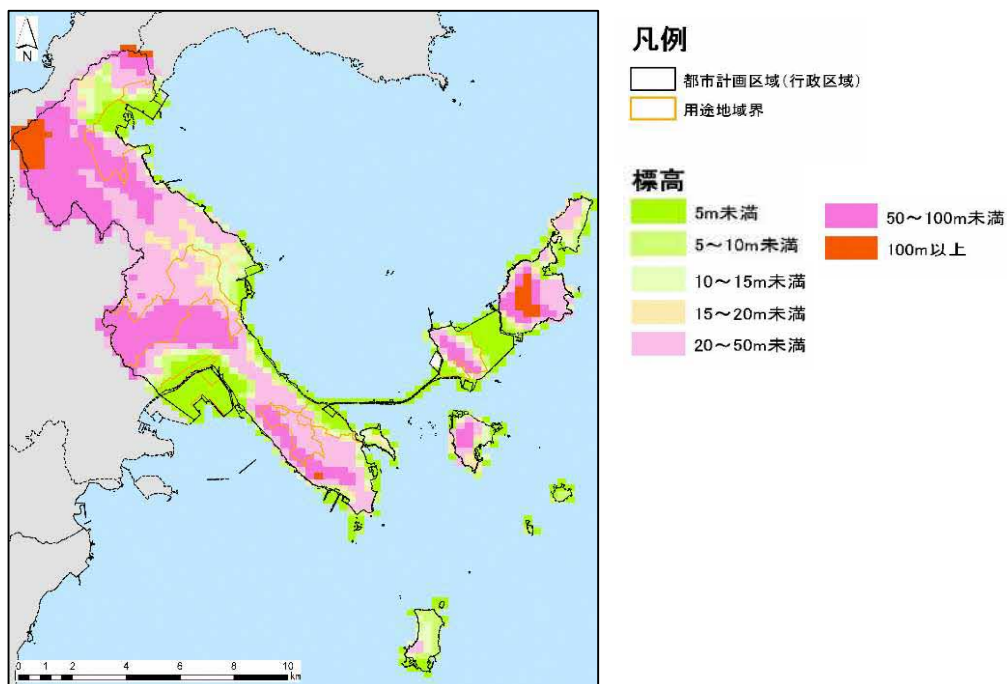
[資料：国勢調査（平成27年度）]

(5) 土地利用

- 用途地域内でも土地の高低差が大きい
- 行政区域全域が都市計画区域に指定、用途地域（約2,081ha）の7割以上が住居系用途
- 市全域の土地利用比率は、自然的土地利用は50.7%、都市的土地利用は49.3%
- 都市的土地利用は用途地域で83.9%、用途地域外は38.4%

＜地形図＞

＜地形図＞



[資料：国土数値情報（平成21年5月）]

<法規制の状況>

(都市計画法に基づく規制)

●用途地域の指定状況

表 用途地域の指定状況

用途地域		面積 (ha)	割合 (%)
住居系	第一種低層住居専用地域	556	26.7
	第一種中高層住居専用地域	483	23.2
	第二種中高層住居専用地域	39	1.9
	第一種住居地域	228	11.0
	第二種住居地域	87	4.2
商業系	準住居地域	84	4.0
	近隣商業地域	85	4.1
	商業地域	43	2.1
工業系	準工業地域	4	0.2
	工業地域	230	11.1
	工業専用地域	242	11.6
計		2,081	100.0

[資料：庁内資料（令和3年3月）]

凡例

都市計画区域(行政区域)

用途地域界

用途名

第一種低層住居専用地域

第一種中高層住居専用地域

第二種中高層住居専用地域

第一種住居地域

第二種住居地域

準住居地域

近隣商業地域

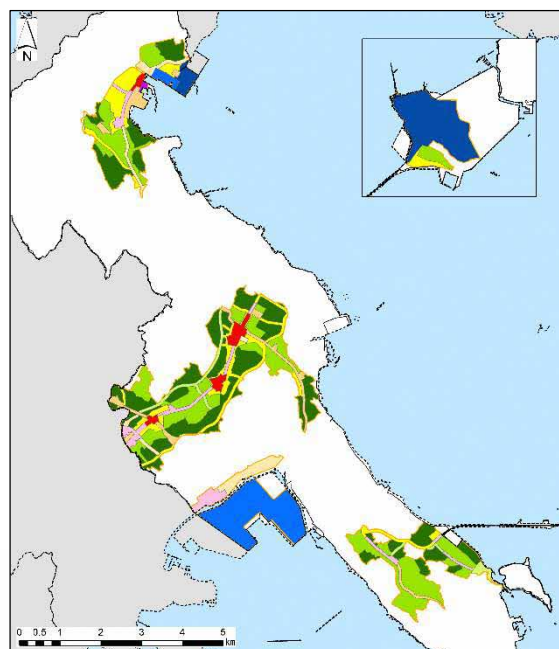
商業地域

準工業地域

工業地域

工業専用地域

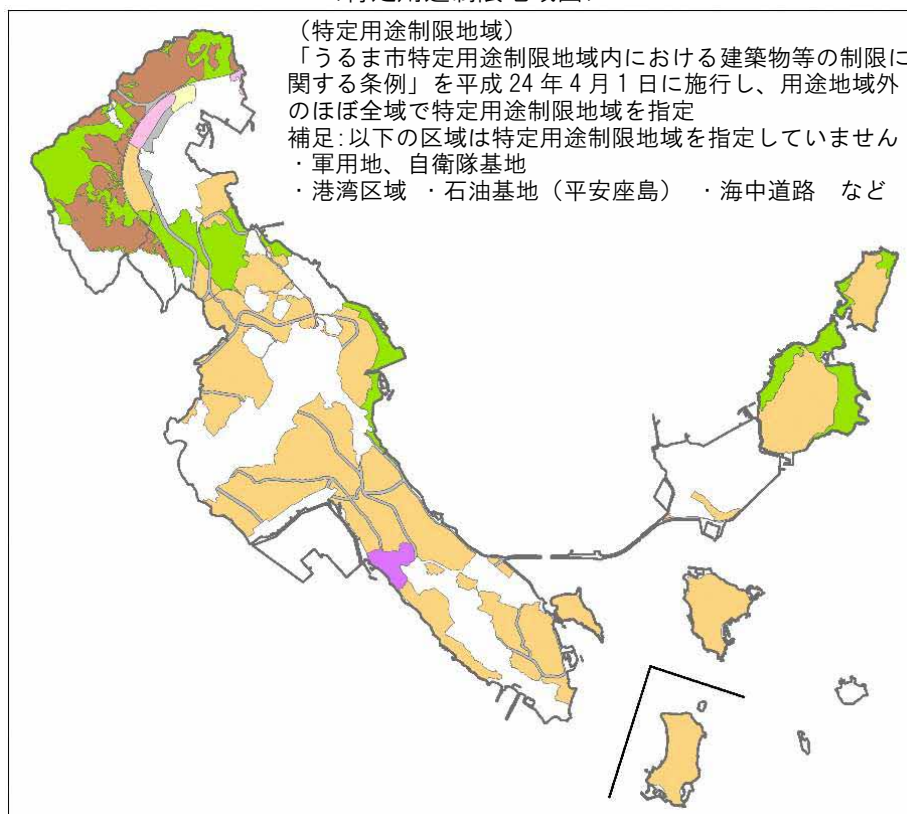
<用途地域図>



[資料：都市計画図（令和3年3月）]

●特定用途制限地域の指定状況

<特定用途制限地域図>



凡例

市街地形成誘導地区

幹線道路沿道地区

市街地緩衝地区

集落環境保全地区

景観保全地区

農業保全地区

勝連城跡周辺保全地区

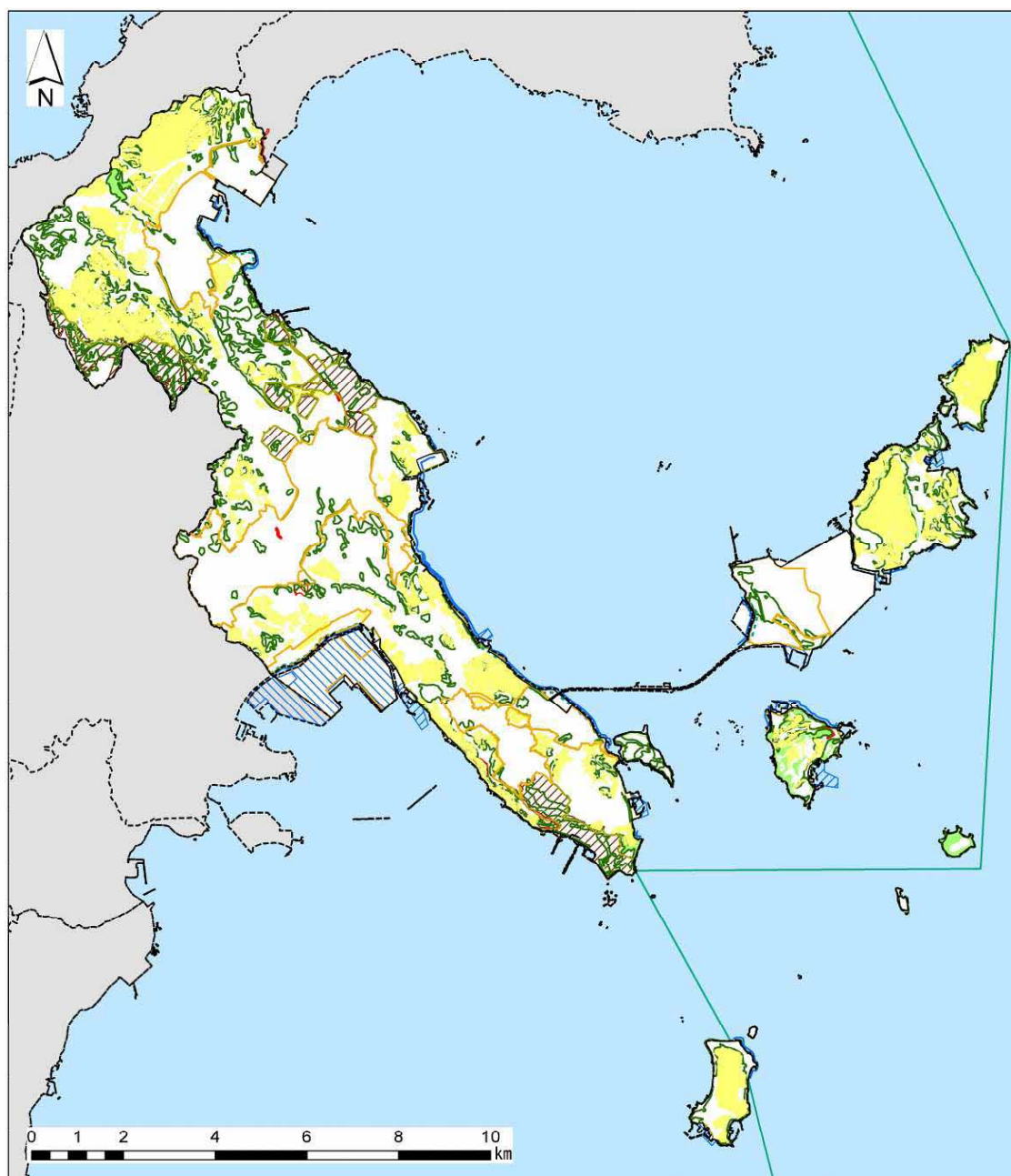
[資料：都市計画図（令和3年3月）]

第2次うるま市都市計画マスタープラン

(その他の規制)

- ・農業振興地域や森林地域など様々な規制がされています。

＜各種法規制の指定状況図＞



凡例

都市計画区域(行政区域)	森林地域	砂防指定地	漁港区域
用途地域界	保安林	海岸保全区域	臨港地区
農業振興地域	急傾斜地崩壊危険区域	港湾区域	風致地区
農用地区域	地すべり防止地区	港湾隣接地域	軍用地

[資料：都市計画基礎調査(平成28～平成30年度)]

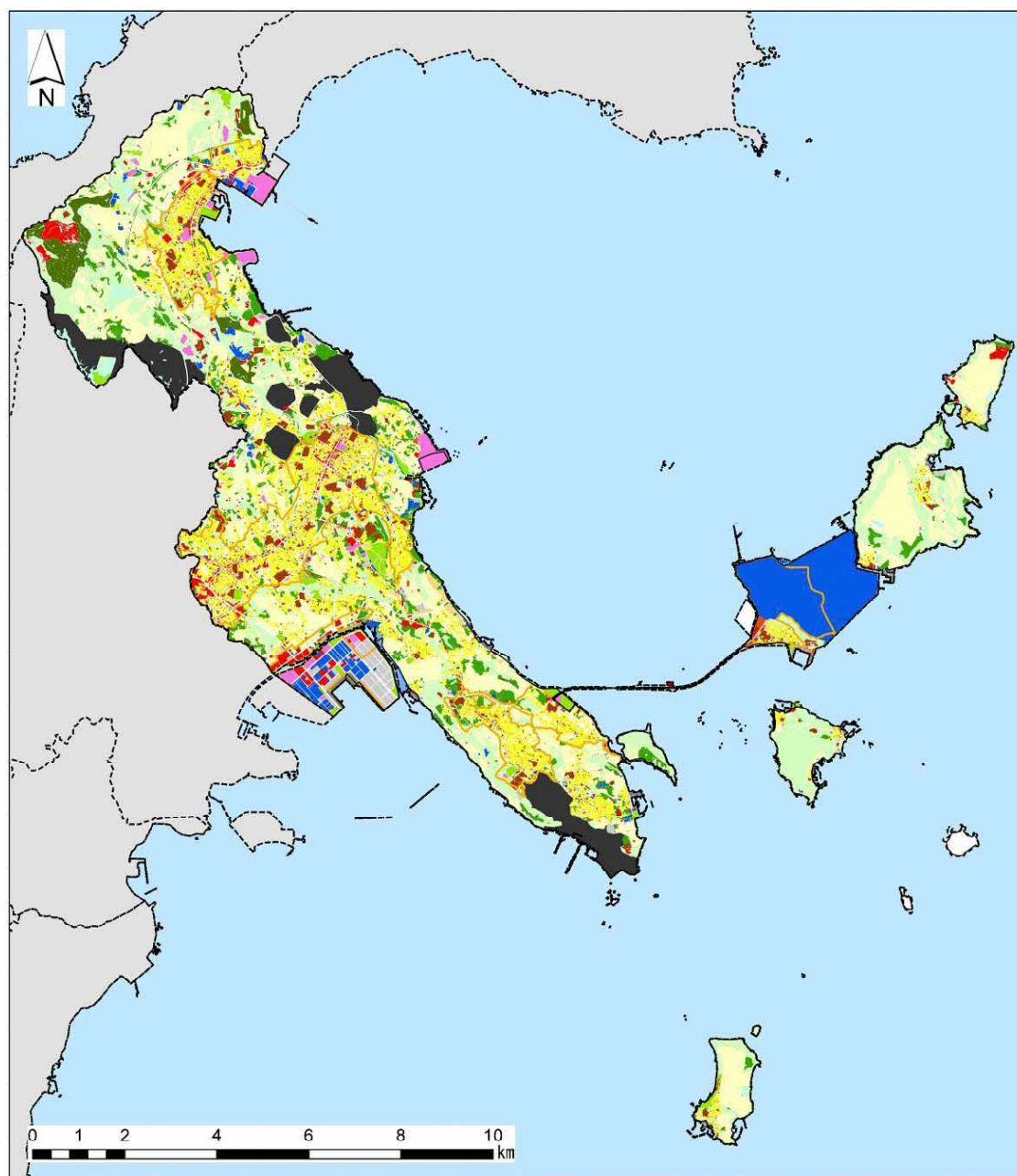
<土地利用の状況>

表 土地利用別面積集計表

土地利用区分			市全域		用途地域		用途地域外	
			面積(ha)	比率(%)	面積(ha)	比率(%)	面積(ha)	比率(%)
自然的 土地 利用	農 地	田	20.9	0.2	0.0	0.0	20.9	0.3
		畑	2,041.8	23.5	187.6	9.0	1,854.2	28.0
		計	2,062.7	23.7	187.6	9.0	1,875.1	28.3
	山林		1,541.6	17.7	70.7	3.4	1,470.9	22.2
	水面		55.0	0.6	2.4	0.1	52.6	0.8
	その他の自然地		754.8	8.7	75.1	3.6	679.7	10.3
	小計		4,414.1	50.7	335.8	16.1	4,078.3	61.6
都市的 土地 利用	宅 地	住宅用地	1,130.5	13.0	653.6	31.4	476.9	7.2
		商業用地	393.6	4.5	99.8	4.8	293.8	4.4
		工業用地	573.2	6.6	296.2	14.2	277.0	4.2
		計	2,097.3	24.1	1,049.6	50.4	1,047.7	15.8
	農林漁業施設用地		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	公益施設用地		341.3	3.9	173.0	8.3	168.3	2.5
	道路用地		811.6	9.3	291.9	14.0	519.7	7.9
	交通施設用地		53.7	0.6	18.8	0.9	34.9	0.5
	その他公的施設		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他公的施設用地		706.2	8.1	53.1	2.6	653.1	9.9
	その他空地		277.8	3.2	161.2	7.7	116.6	1.8
	小計		4,287.9	49.3	1,747.6	83.9	2,540.3	38.4
合計			8,702.0	100.0	2,083.4	100.0	6,618.6	100.0

[資料：都市計画基礎調査(平成28～平成30年度)]

第2次うるま市都市計画マスタープラン



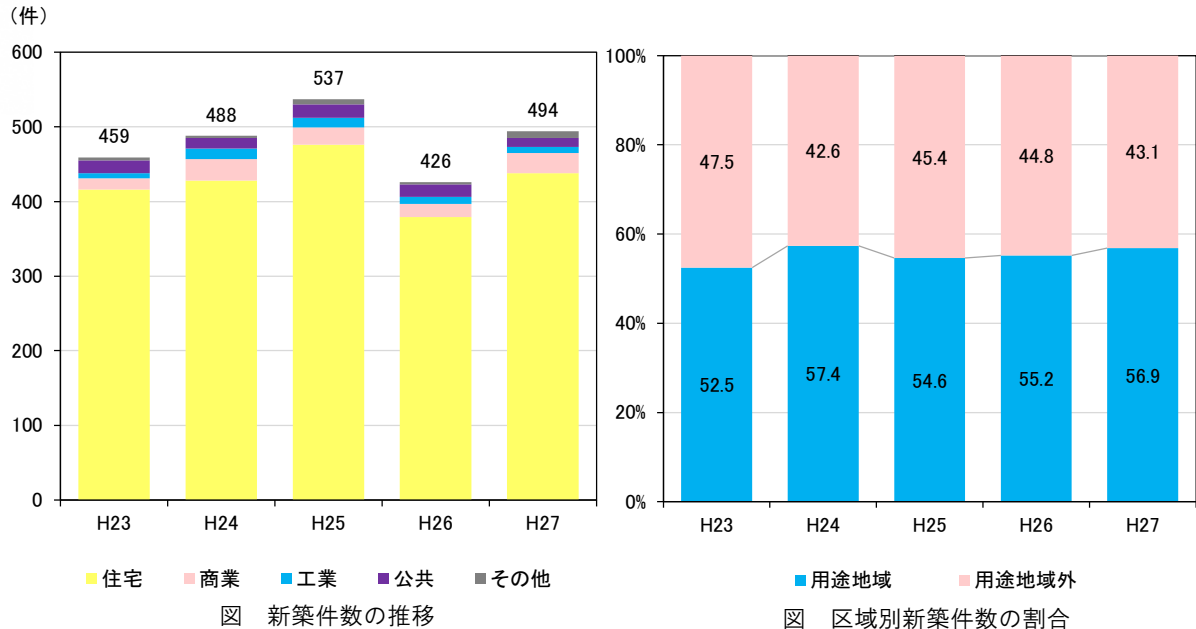
凡例

都市計画区域(行政区域)	土地利用	水面	併用住宅用地	公共用地	公園・緑地	ゴルフ場
用途地域界	田	原野・荒地・牧野	商業用地	道路用地	防衛用地	
	畑	その他(海浜等)	工業用地	運輸施設用地	その他の空地	
	山林	住宅用地	文教厚生用地	公共空地	駐車場用地	

[資料：都市計画基礎調査(平成 28～平成 30 年度)]

(6) 開発動向

- 5年間の新築件数は2,404件、住宅が約9割を占める
- 用途地域外の新築件数が4割を超える



[資料：都市計画基礎調査(平成28～平成30年度)]

(7) 公共交通等

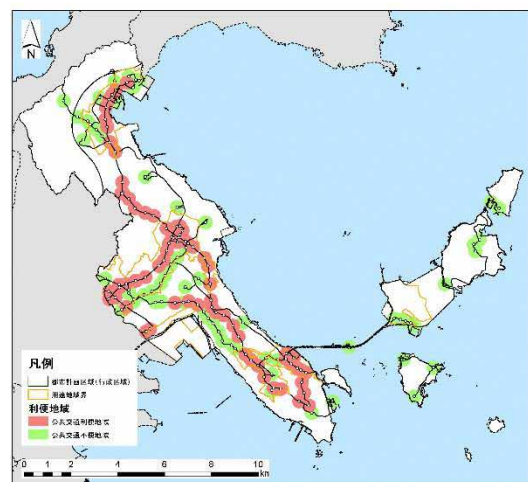
- 31のバス路線が運行されており、1時間1本以上運行がある路線は15路線
- 公共施設間連絡バスが運行中

- ・市内には具志川バスターミナルと屋慶名バスターミナルが立地
- ・平成27年度時点、約31%の市民が公共交通空白地域に居住
- ・令和3年時点、平敷屋港、津堅港より1日それぞれ高速船2便、フェリー3便が運航し、高速船は年間約3万人、フェリーは年間約5.2万人が利用
- ・公共施設間バスは、令和3年10月まで2路線(1路線7本/日)で運行、令和3年11月からは4路線にて実証運行

表 公共交通の利便性の評価

			利便地域
バス	バス停から300m圏内	運行本数30便/日(往復)以上	公共交通利便地域
		運行本数30便/日(往復)未満	公共交通不便地域
	バス停から300m圏外		公共交通空白地域

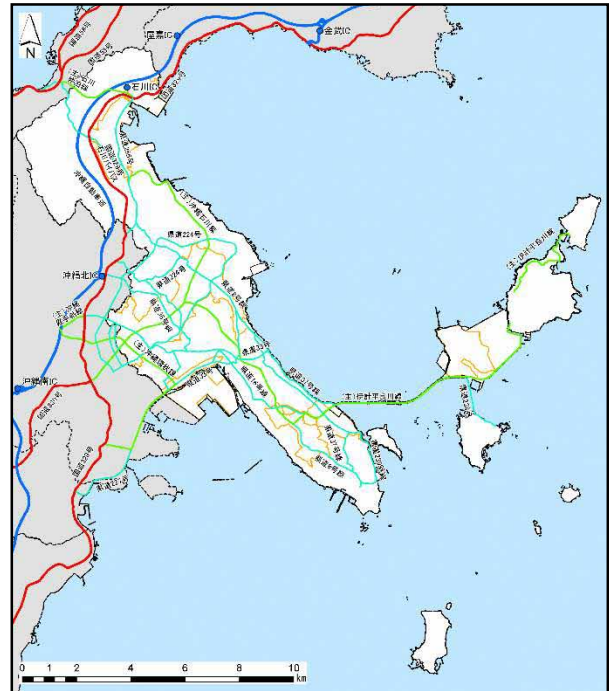
[資料：都市計画基礎調査(平成28～平成30年度)を基に作成]



(8) 都市施設

<都市計画道路等>

- ・沖縄自動車道・国道329号・県道75号線を基軸に道路ネットワークが構築
- ・具志川地域に38路線、石川地域に20路線の計58路線の都市計画道路が計画決定
- ・都市計画道路の種別は、具志川地域は幹線街路が29路線、区画街路が9路線。石川地域は幹線街路が13路線、特殊街路が7路線
- ・都市計画道路の整備率は90%
- ・本市決定の都市計画道路は、未着手が1路線、一部未着手が2路線



凡例 図 主要道路ネットワークの状況



[資料：交通センサス（平成27年度）、道路整備プログラム（令和4年度）]

<都市公園>

- ・都市公園（うち、都市計画決定公園55箇所）は105箇所、そのうち94箇所は整備済み（街区公園79、近隣公園12、地区公園3、総合公園2、運動公園1、風致公園2、都市緑地6）
- ・都市公園の供用率は約68%

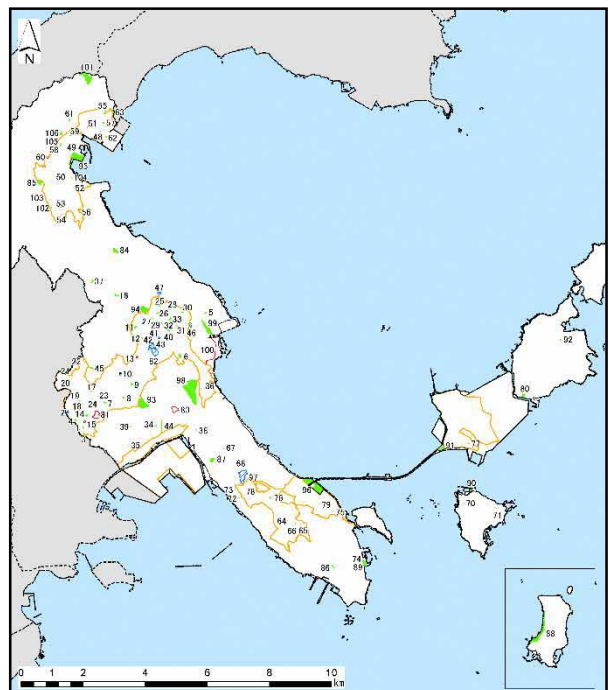
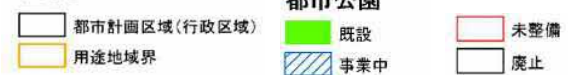


図 公園の分布

凡例



[資料：庁内資料]

<下水道>

- ・公共下水道、流域下水道の整備率（進捗率）は、それぞれ 66.9%、80.6%
- ・うるま市流域関連公共下水道および単独公共下水道の 2 種類の下水道が都市計画決定されており、認可区域面積は 2,848.7ha
- ・農業集落排水の整備率（進捗率）は 100% となるが、水洗化率は 31.5% であり、今後も接続推進が必要（津堅島）

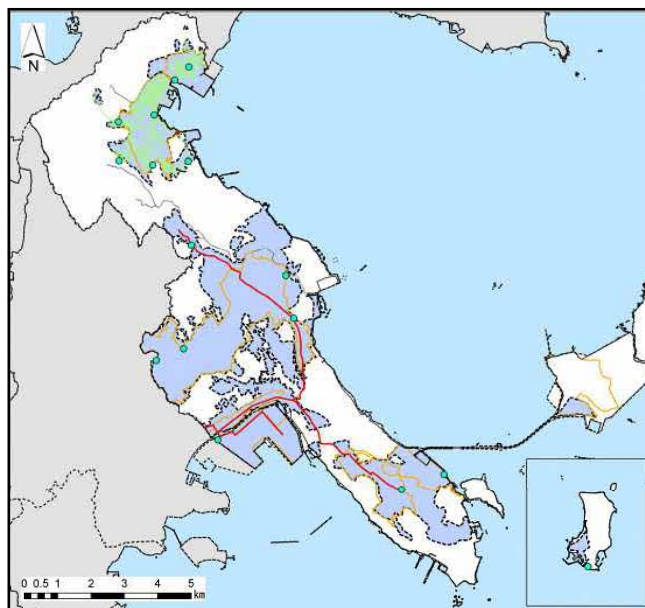


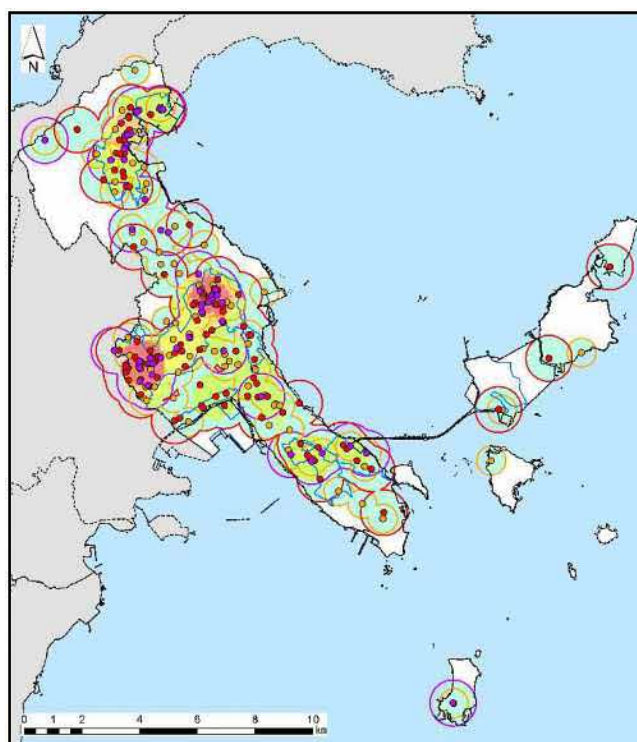
図 下水道の整備状況



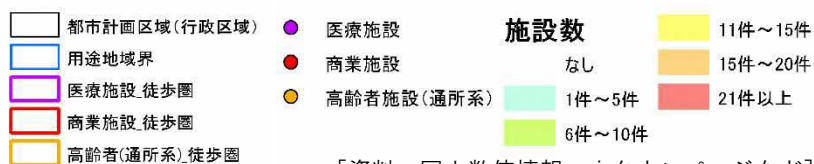
[資料：都市計画基礎調査(平成 28～平成 30 年度)、庁内資料]

(9) 生活利便施設集積状況

- ・「安慶名・みどり町（具志川地区）」「江洲・赤道地区（具志川地区）」「石川 1 丁目・石川 2 丁目（石川地区）」に日常生活に必要な施設が集積
- ・島しょ地域においては、医療施設が無く（診療所のみ）、本島への移動が必要



凡例



[資料：国土数値情報、i タウンページなど]

1-3. アンケート調査結果の概要

本計画策定の参考とするため、市民、学生及び本市職員を対象にアンケート調査を実施しました。

(1) 実施概要

	①市民アンケート	②学生アンケート	③市職員アンケート
実施対象、方法	・19歳以上の市民 2,500人を対象 ・郵送にて実施	・市内7高校に通う高校生を対象 ・アンケート用紙を配布	・本市職員 約1,000人を対象 ・庁内アンケートを実施
実施期間	令和2年9月23日 ～10月8日	令和2年10月中旬 ～11月上旬	令和2年10月13日 ～10月27日
回答人数（回収率）	907人（36%）	668人（-）	311人（31%）

(2) 調査内容

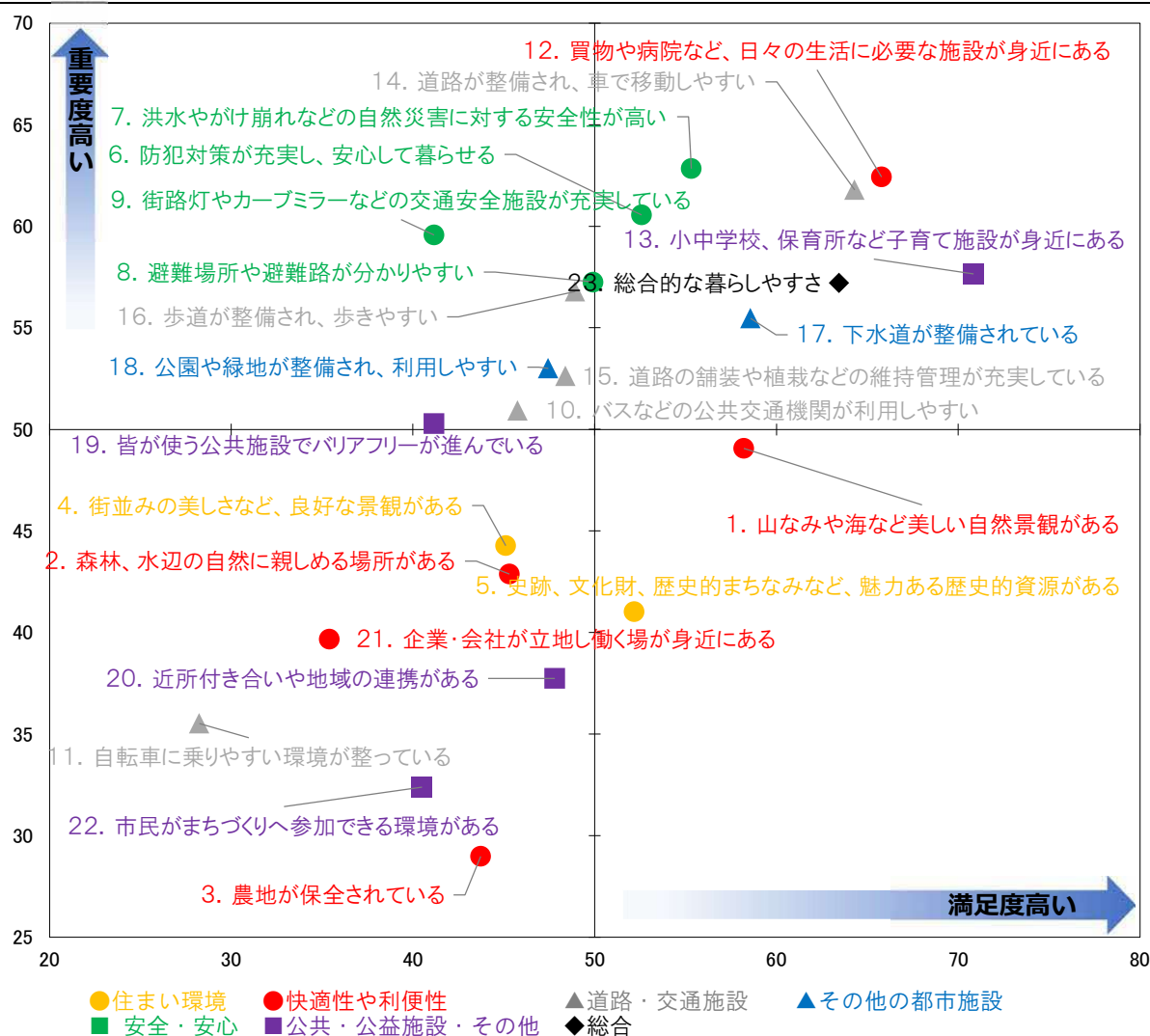
アンケート調査の内容は、主に以下に挙げる項目を対象としました。

調査内容	
属性	【居住地（中学校）】【性別】【年齢】【職業】【居住形態】 【世帯構成の内訳】【本市への居住継続希望】
居住動向	【居住形態】【世帯構成の内訳】【居住意向】【移転理由】
現在の居住地域について 生活の満足度・重要度	・豊かな環境 ・安心・安全 ・利便性 ・公共施設の整備 ・地域社会 ・総合的な暮らしやすさ
日常の生活圏、交通手段	・通勤・通学 ・買い物（毎日の食料品） ・買い物（家電・家具・衣料品などの買い回り品） ・病院、福祉サービスの利用 ・スポーツ、レクリエーション、映画などの娯楽 ・図書館や公民館などでの文化活動
将来のうるま市について	・今後重要と考える事項 ・まちづくりのキーワード（市全体、居住地）
これまでのまちづくり	【まちづくりの基本目標に沿った評価】
まちづくりへの参加意向	【現在の参加状況】【参加意向】【市の取組み】
自由意見	自由記述

(3) 調査結果

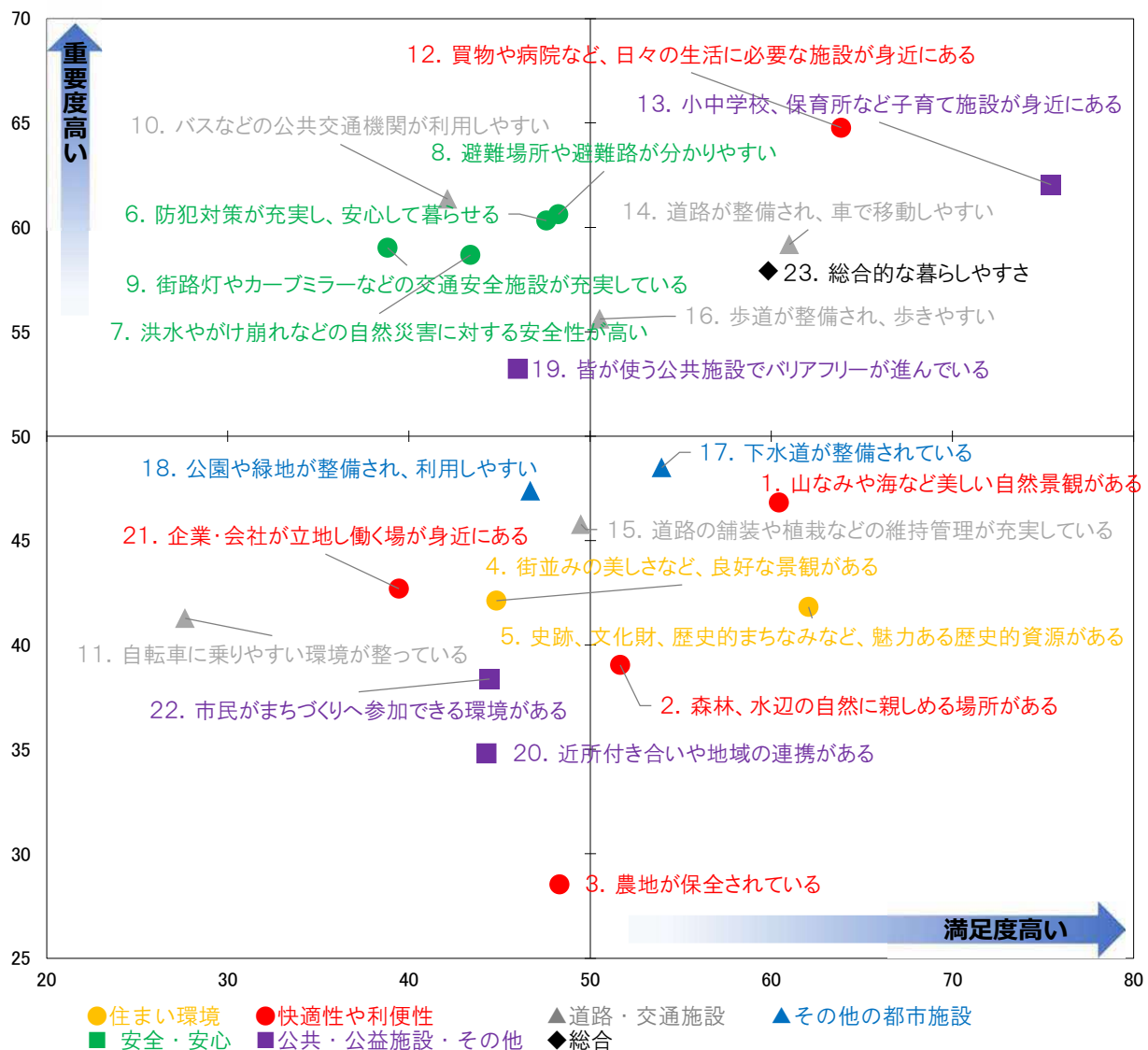
<生活の満足度・重要度：①市民アンケート>

項目	調査結果の概要
現在の居住地について生活の満足度・重要度	○重要度、満足度ともに高い項目 ・小中学校、保育所など子育て施設が身近にある ・買物や病院など、日々の生活に必要な施設が身近にある ・道路が整備され、車で移動しやすい
	○重要度は高いが、満足度は低い項目 ・街路灯やカーブミラーなどの交通安全施設が充実している ・避難場所や避難路が分かりやすい ・歩道が整備され、歩きやすい
	○重要度は低いが、満足度高い項目 ・山なみや海などの美しい自然景観がある ・史跡、文化財、歴史的まちなみなど、魅力ある歴史資源がある
	○重要度、満足度ともに低い項目 ・自転車に乗りやすい環境が整っている ・農地が保存されている
【その他】	
○生活に必要な施設の「利便性」は重要度、満足度ともに高く、本市の伸ばすべき特徴	
○「安全・安心」に関する項目及び公共交通機関の利便性については重点的に改善すべき事項	



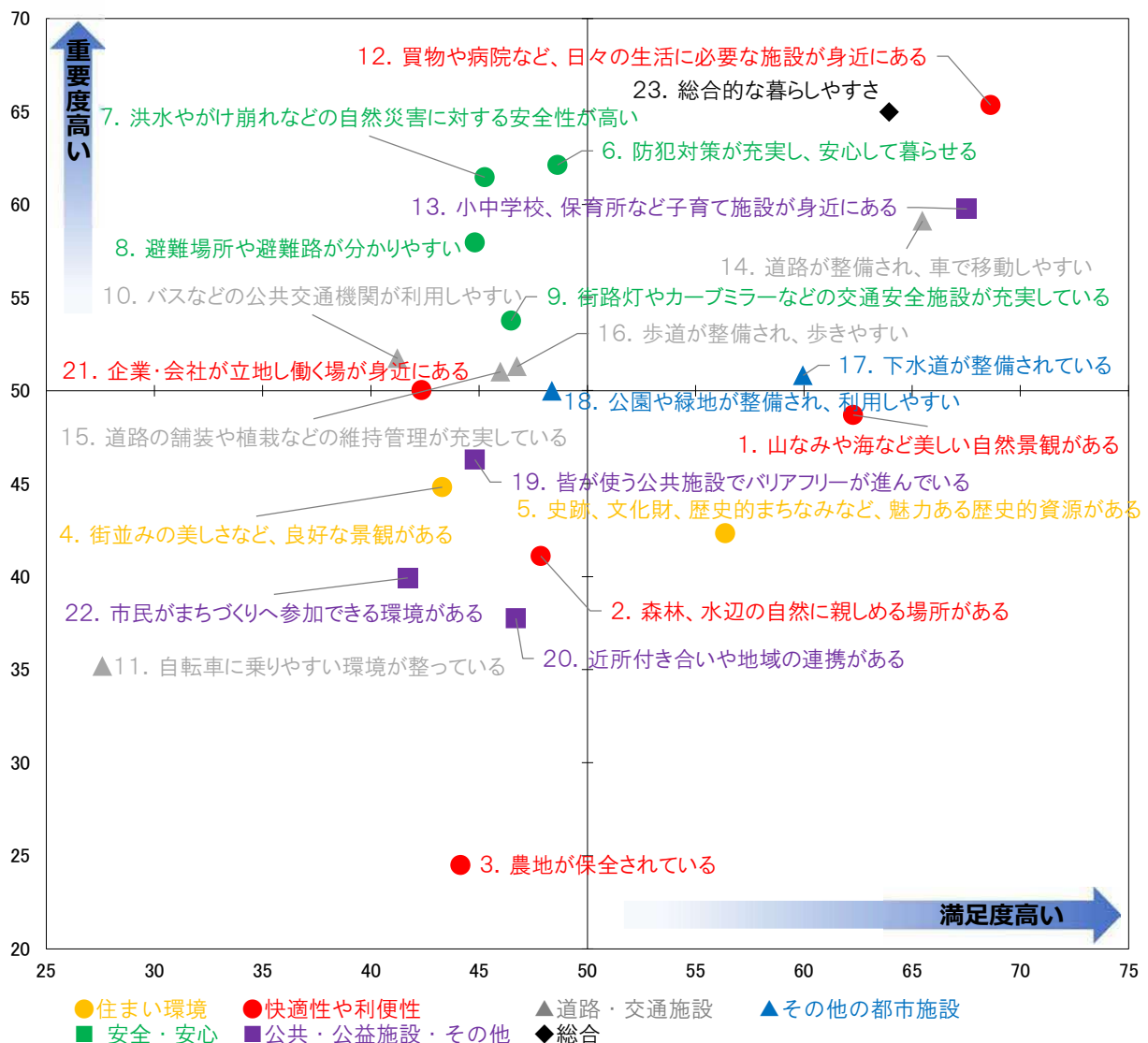
<生活の満足度・重要度：②学生アンケート>

項目	調査結果の概要
現在の居住地について生活の満足度・重要度	○重要度、満足度ともに高い項目 ・小中学校、保育所など子育て施設が身近にある ・買物や病院など、日々の生活に必要な施設が身近にある ・道路が整備され、車で移動しやすい
	○重要度は高いが、満足度は低い項目 ・街路灯やカーブミラーなどの交通安全施設が充実している ・バスなどの公共交通機関が利用しやすい ・洪水やがけ崩れなどの自然災害に対する安全性が高い
	○重要度は低いが、満足度高い項目 ・史跡、文化財、歴史的まちなみなど、魅力ある歴史資源がある ・山なみや海などの美しい自然景観がある
	○重要度、満足度ともに低い項目 ・自転車に乗りやすい環境が整っている ・農地が保存されている
【その他】 ○生活に必要な施設の「利便性」は重要度、満足度ともに高く、本市の伸ばすべき特徴 ○「安全・安心」に関する項目及び公共交通機関の利便性については重点的に改善すべき事項	



<生活の満足度・重要度：③市職員アンケート>

項目	調査結果の概要
現在の居住地について生活の満足度・重要度	○重要度、満足度ともに高い項目 ・買物や病院など、日々の生活に必要な施設が身近にある ・道路が整備され、車で移動しやすい ・総合的な暮らしやすさ
	○重要度は高いが、満足度は低い項目 ・洪水やがけ崩れなどの自然災害に対する安全性が高い ・防犯対策が充実し、安心して暮らせる ・避難場所や避難路が分かりやすい
	○重要度は低いが、満足度高い項目 ・史跡、文化財、歴史的まちなみなど、魅力ある歴史資源がある ・山なみや海などの美しい自然景観がある
	○重要度、満足度ともに低い項目 ・自転車に乗りやすい環境が整っている ・農地が保存されている
【その他】 ○生活に必要な施設の「利便性」は重要度、満足度ともに高く、本市の伸ばすべき特徴 ○「安全・安心」に関する項目及び公共交通機関の利便性については重点的に改善すべき事項	



＜その他調査結果概要＞

項 目	調査結果の概要
居住意向 と移転理由	＜居住意向＞ 「今の地域に住み続けたいが約 75%」 ＜移転理由＞（上位 3 項目） 「日常生活をする施設の利便性」「通勤・通学の利便性」「バスなどの公共交通の利便性」
日常の生活圏	＜通勤・通学＞（上位 3 項目 以下同様） 「沖縄市」「安慶名地区」「その他具志川地区」 ＜買い物（毎日の食料品等）＞ 「安慶名地区」「石川市街地地区」「江洲、赤道地区」 ＜買い物(家電・家具・衣料品などの買い回り品)＞ 「江洲、赤道地区」「前原地区」「沖縄市」 ＜病院、福祉サービスの利用＞ 「沖縄市」「江洲、赤道地区」「安慶名地区」 ＜図書館や公民館などでの文化活動＞ 「石川市街地地区」「その他の具志川地区」「安慶名地区」
中心拠点に ほしい施設	＜中心拠点（安慶名）＞（上位 3 項目 以下同様） 「大規模病院」「買い回り品」「食料品・飲料・日常生活品などの店舗」 ＜地域拠点（石川）＞ 「大規模病院」「買い回り品」「食料品・飲料・日常生活品などの店舗」 ＜地域拠点(勝連)＞ 「食料品・飲料・日常生活品などの店舗」「買い回り品」「医院・診療所」 ＜地域拠点(与那城)＞ 「食料品・飲料・日常生活品などの店舗」「医院・診療所」「買い回り品」
将来のうるま市 について （今後重要と 考える事項）	＜住宅地について＞（上位 2 項目 以下同様） ・老朽化した住宅の建て替えや空き家への住み替えを促進し、既存住宅地の改善を図る（37.4%） ・住宅地の周辺に医療・福祉施設、商業施設を集約・誘導し、人口を集積するコンパクトなまちづくり（29.2%） ＜商業地について＞ ・既存住宅地の近辺に、徒歩でも利用できる商店などを充実させる（23.8%） ・現状のままでよい(新たな対応は必要ない)（19.0%） ＜工業地について＞ ・現状のままでよい(新たな対応は必要ない)（35.1%） ・住宅と工場、物流施設の混在を解消し、周辺と調和した工業地を整備する（26.6%） ＜農地の保全・活用について＞ ・観光農園など多角的に利用（28.7%） ・活用されていない農地は、住宅地などに利用（24.4%） ＜森林や海、河川などの自然について＞ ・今ある自然を保全（43.9%） ・必要に応じて開発（26.0%）

将来のうるま市について (今後重要と考える事項)	<u>＜道路・交通について＞（上位2項目 以下同様）</u> ・バス、コミュニティバス、乗合タクシーなどの公共交通を充実させる（31.1％） ・身近に利用する生活道路を整備する（20.9％） <u>＜公園・緑地について＞</u> ・身近に利用できる公園・広場の整備（31.5％） ・既存の公園の適切な維持管理（24.4％） <u>＜高齢者や障がい者への対応＞</u> ・生きがいの場、健康づくりの場の充実（21.2％） ・高齢者や障がい者に配慮したバリアフリー環境の整備（17.7％） <u>＜防災のあり方＞</u> ・災害時に安全に避難ができる道路や避難できる公園などを整備する（27.7％） ・土砂崩れや洪水などの災害対策を行う（17.5％） <u>＜環境のあり方＞</u> ・まとまった農地、海、河川などの自然環境をできる限り保全する（32.0％） ・畜舎や排水路等からの悪臭対策を行う（26.3％） <u>＜景観のあり方＞</u> ・地域に応じた景観の保全（25.8％） ・無電柱化の推進（24.5％）
将来のうるま市について (まちづくりのキーワード)	(上位5項目（複数回答）) ・高齢者などが住みやすい福祉、医療のまち（42.8％） ・働く場が充実したまち（31.0％） ・緑や川などの自然が美しく豊かなまち（27.7％） ・通勤・通学に便利で住環境の優れたまち（27.5％） ・人口減少・高齢化を見据えたコンパクトシティの形成（25.2％）
これまでのまちづくり	第1次計画の評価（評価の高い項目及び低い項目 上位3つ） <u>＜評価の高い項目＞</u> ・石川多目的ドームや市民芸術劇場などを活用し、闘牛やエイサーといった文化を積極的に発信している。 ・勝連城跡や各地域に残る御嶽、拝所などうるま市らしい歴史・文化的資源の保護が図られている。 ・安慶名地区に商業施設や業務施設などの新しい建物が増え、歩行者も増えて賑わっている。 <u>＜評価の低い項目＞</u> ・海や海岸線、地域にまとまって残る緑や農地が保全されている。 ・公共交通機関を用い、生活に必要な移動を簡便に行うことができる。 ・勝連・与那城地区に商業施設や業務施設などの新しい建物が増え、歩行者も増えて賑わっている。

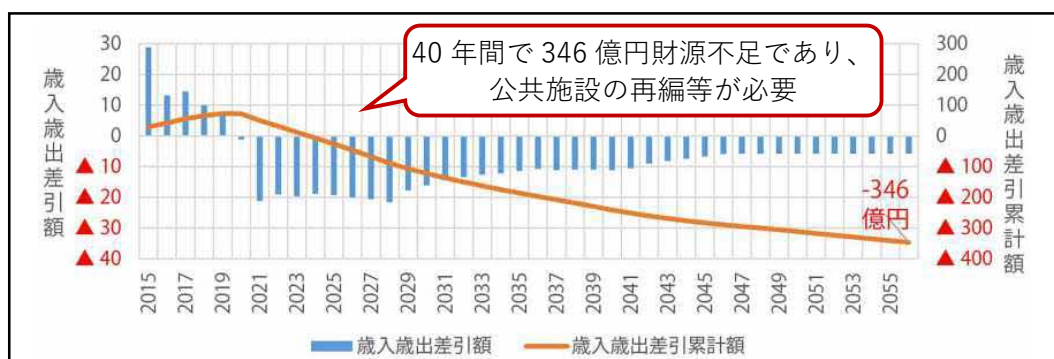
1-4. 現況・アンケートから見る都市の改善点と方向性

1. 都市全体の改善点と方向性

<改善点>

- ・将来的な人口減少を見据え、用途地域外での無秩序な開発を抑制し、計画的な土地利用を進めるなど、効率的な都市構造への転換が求められる。(集約型都市を見据えた機能誘導、人口動態に基づく都市づくりが必要)
- ・類似する公共施設の集約化や低利用施設の有効活用、複合化が求められる。(※1)
- ・市街地周辺の開発は利便性を高める一方で、まちの顔となる市街地の衰退も発生しており、質の高い持続可能な都市形成・都市経営が求められる。
- ・東海岸サンライズベルト構想を展開し、観光や産業を基軸とした東海岸地域の発展に寄与する地域資源の活用、広域連携が求められる。
- ・島しょ地域での人口減少・高齢化に対しては、地域(集落)の維持、生活利便性の確保に向けて、地域活力の形成や周辺の拠点との連携が求められる。

<※1：財政シミュレーション結果(単位：億円)>



資料：うるま市公共施設等総合管理計画

<方向性>

【質の高い持続可能な都市づくりの実現】

将来的な人口減少や将来に向けた質の高い持続可能な都市づくりを見据え、都市の一体性確保や都市の再構築が必要

- 持続可能な都市構造への転換
- 既存の都市施設が集積している地域への機能誘導や類似公共施設の統廃合
- 特色ある地域資源の活用や、生活利便性の確保による地域(集落)の維持・活性化
- 周辺市町村との広域的な連携・ネットワークの構築
- 東西と南北に長い地形、島しょ地域といった特徴を捉えた、うるまらしい都市構造(※2)の形成

※2：中心拠点だけでなく、各地域の拠点がネットワークで結ばれた多極連携のまちづくり

2. 分野別の改善点

<土地利用・開発動向>

<改善点>

- ・本市の生活利便性の高さを生かし、将来においても高齢者をはじめ誰もが住みやすい（住み続けたいくなる）まちづくりへ向けて、都市構造の方針の深堀が求められる。
- ・地域それぞれの需要に応じた、核となる都市機能の集積が必要。
- ・無秩序な開発の抑制、良好な市街地環境形成に向け、用途地域内外の計画的な土地利用の検討が必要。
- ・拠点地区では都市機能の集積に併せ、それぞれの機能を結び、まちなかの回遊性や滞留性の促進に向けて、安慶名地区における歩行者空間等の活用が必要。

<方向性>

【地域に応じた拠点形成と適正な土地利用コントロール】

- ①現在の生活環境や高い利便性を継続するとともに地域の賑わいや魅力を創出する拠点づくりに取組み、交通ネットワークを構築
- ②庁舎周辺を中心拠点とし、各拠点を交通軸で結んだ、生活しやすい生活圏の形成
- ③各拠点内及び島しょ地域内で生活サービス施設を誘導・集約させる適切な土地利用・集約型のまちづくりを推進

<都市施設>

<改善点>

- ・市民の生活利便性を高めるため、各種都市施設については、継続した整備・改善が求められる。
- ・一方で、公共施設の維持管理費が増大しており、都市のマネジメントの観点に立って、計画的な都市施設の整備（公園の集約・一部廃止の検討など）が望まれる。
- ・災害時における島しょ地域との道路ネットワークの構築、緊急輸送道路整備が必要。
- ・島しょ地域においては、今後の人口減少を見据えた計画的な公共施設の整備・維持管理が求められる。

<方向性>

【効率的な都市施設整備】

- ①うるまらしい持続可能なまちづくりを目指した、統廃合を含めた都市施設の計画的な整備
- ②各地域で快適に暮らすことができる都市施設の整備、災害時に安心して利用できる強固な道路ネットワークの構築
- ③今後の人口減少を踏まえ、計画的かつ地域や事業者と協働（公民連携）による都市施設の整備・維持管理を推進

<産業>

<改善点>

- ・従来の住機能型都市の性格から働く場としての性格も強くなっているが、中城湾港新港地区の分譲可能用地が減少していることから、引き続き都市の活力を高めるために、土地利用方針との整合を図りながら新たな産業用地の確保が必要。
- ・生活サービスや生活圏を考慮した都市構造の検討や公共交通をはじめ、周辺市町村との連携を踏まえた検討が必要。
- ・農地保全のための計画的な土地利用や畜産業との共存を見据えた土地利用、産業基盤強化を見据えた6次産業の推進が求められる。

<方向性>

【産業振興を見据えたまちづくり】

- ①本市の持つ多様な環境を最大限に生かした住機能、産業が両立するまちづくり
 - 農地や産業拠点用地の適正な誘導、集積によって地域ごとの活力を創出
- ②周辺市町村と連携し、市民の生活行動が円滑になる都市構造を目指す

<観光動向>

<改善点>

- ・勝連城跡の入場者数は年々増加しており、周辺地区へ観光客を波及させる施策の実施が必要（通過型観光から滞在型観光への転換）。
- ・レンタカー以外でも観光地周遊が可能になるためのバス、タクシー、自転車など交通機関の連携が求められる。
- ・島しょ地域の景観・自然を生かした観光ルートの構築やコンテンツの提供が必要。

<方向性>

【観光活性化を促すまちづくり】

- ① 観光客に滞在を促す、魅力ある観光地の形成
 - 特色ある景観・自然の保全と観光活用の両立
 - 観光拠点を中心とした周遊型観光を見据えた観光交流ネットワークの構築を推進

<公共交通等>

<改善点>

- ・将来において、高齢者をはじめ誰もが公共交通により移動しやすく、日常生活を円滑に送ることができる交通環境の構築が求められる。
- ・集約型都市構造の形成及び拠点をつ結ぶ交通体系の整備を見据えた、土地利用と公共交通の連携による取組みが求められる。
- ・勝連城跡周辺の自転車を活用した観光ルートの構築、クルーズ船の観光客を周遊させるための交通拠点形成が必要（タクシー、シャトルバス乗り場の設置）。
- ・島しょ地域においてはグリーンスローモビリティなど新しい交通手段を活用した地域の交通課題の改善と観光事業の強化が必要。

<方向性>

【拠点間・拠点内をつ結ぶ交通手段の整備】

- ①うるまらしい都市構造を見据えた、拠点間、周辺市町村をつ結ぶ交通ネットワークの構築
- ②日常生活を円滑に行うための拠点内の交通、交通機能向上を図るための公共交通システムの構築
- ③島しょ地域の公共交通の改善
 - 新たな交通手段を導入した地域課題の解決と観光への活用
 - 自転車通行空間の整備を推進

<自然環境・景観>

<改善点>

- ・島しょ地域の景観・自然を生かした観光ルートの構築やコンテンツの提供が必要（再掲）。
- ・地域固有の豊かな自然や貴重な歴史遺産、文化財、伝統芸能と、暮らしの自然・景観は、本市の魅力を形成する要素となっており、将来に継承することが求められる。

<方向性>

【うるまらしい景観の保全と活用】

- ①美しい海と豊かな緑による潤いのあるまちづくりに向け、自然環境の保全・活用を推進
- ②歴史文化遺産を核とし、周辺地域が一体となった景観の創出
- ③島しょ地域の特色ある自然環境を観光に生かした拠点づくりの推進

<防災>

<改善点>

- ・災害時でも安全・円滑に避難可能な都市基盤の整備、公共施設等の耐震化が必要。
- ・密集市街地の整備改善が必要。
- ・島しょ地域と本島を結ぶ交通ネットワーク構築、孤立時の島内での防災強化が必要。
- ・多様なニーズ、情勢の変化に対応した避難計画の策定、他市町村とも連携した防災体制の構築が求められる。

<方向性>

【安心して住み続けられるための都市の強靱化】

- ①どの地域でも住み続けられる環境維持のため、災害に強い安全・安心のための施策を推進
- ②島しょ地域の孤立化を想定した避難・防災施設の整備に取り組む
- ③各種災害ハザードの回避、低減に向けたハード・ソフトを一体的に取り組む

<参考：前回計画で位置付けられていた問題点>

- ①新たな都市構造の形成：旧市町で位置付けられた都市の核の位置付けの見直し、都市軸・ネットワークとしての道路構造の形成
- ②持続可能な都市形成のための都市成長管理：土地利用のコントロール、都市施設の効率的な管理
- ③うるまらしい都市景観の形成：景観計画の策定、用途未指定地域での建築物の誘導・制限、墓地等の配置コントロール
- ④石川 IC 開発動向、県道 33 号線整備（中城湾港新港地区の開発）、環境調和型まちづくり、南部・島しょ地域の観光

1-5. 都市づくりの課題

課題1

拠点が連携し、機能が集約した都市構造の形成

- 当面、人口増加傾向であるが、今後の人口減少・高齢化社会を見据え、各拠点においてこれまで同様に郊外の無秩序な開発への対応として集約型の都市づくりを進めながら、都市の質、生活サービスの維持・向上、都市の持続可能性（施設の効率的・効果的な維持管理など）を高めることが必要
- 本市の東西と南北に長い地形や生活圏のつながり、合併後の望ましい都市の姿などを踏まえ、本庁舎周辺を核とした中心拠点とそれらを結ぶ地域拠点の形成など、本市の特性を踏まえた都市構造の位置付けが必要
- 各拠点間及び各生活圏内において、高齢者をはじめ誰もが移動しやすい交通ネットワークの構築や歩いて暮らせるまちづくりが必要
- 拠点形成のため、適切な都市機能の集積や居住者の誘導、各地域の特性に配慮した土地利用コントロールが必要
- 人口減少・高齢化が進んでいる島しょ地域においては日常生活の利便性の確保と活性化を見据えた都市構造の検討が必要

課題2

地域特性を生かし、本市の魅力を高める拠点づくり

- 歩いて暮らせる生活利便性（付加価値）の高い都市構造及び拠点形成に加え、地域特性を生かし、本市及び地域の魅力を高める拠点づくりが必要
- 中城湾港新港地区周辺を中心とした産業振興を推進するとともに、新たな産業用地の確保と働く場所の創出が必要
- 勝連城跡周辺を一体活用した観光拠点の形成、島しょ地域の特色ある景観・自然を生かした持続的な観光振興づくりが必要
- 安慶名市街地、石川インターチェンジ周辺などは、既存施設・周辺地域と連携した交通結節点の整備や地域活性化が必要

課題3

うるま市のもつ骨格・資源の保全活用

- 
- 本市の都市の豊かさ、産業、文化を支える骨格となる自然資源、歴史・文化資源を今後も保全・活用することが必要
 - 農地の適切な保全及び土地を有効的に活用するため、地域の実情に沿った農地の集約などによる生産性の高い生産基盤の形成が必要
 - うるまらしい景観や文化遺産、自然環境を適切に保全・維持管理していくための計画的な土地利用が必要
 - 勝連城跡周辺を一体活用した観光拠点の形成、島しょ地域の特色ある景観・自然を生かした持続的な観光振興づくりが必要（再掲）

課題4

持続可能な都市マネジメントの推進

- 
- 誰もが安心して生活し、住みたい・住み続けたいと感じる安全・安心なまちづくりが必要
 - 環境にやさしいまちづくりの推進や最新技術を活用しながら、経済、社会、環境が調和した持続可能な都市の構築が必要
 - 効率的な財政の運営に向け、需要と供給のバランスが成り立つ計画的な都市施設の維持管理や、事業者・市民との協働による都市のマネジメントが必要

1-6. まちづくりの方向性（キーワード）

（１）うるまらしい多極連携・集約型の都市構造形成

- ・人口減少・高齢化を見据えた、誰もが暮らしやすいユニバーサルデザインのまちづくり
- ・集約型のまちづくりを支える拠点形成・役割の位置付け
- ・本庁舎周辺を核とした中心拠点とそれらと連携する生活拠点の形成
- ・拠点、生活圏内の交通体系の見直しや歩行者空間の形成
- ・島しょ地域の生活利便性の維持・確保
- ・都市機能の集積と適切な土地利用コントロール
- ・地域拠点とその他の拠点の機能連携・ネットワークによる都市全体の魅力の向上
（（２）と連動）

（２）地域特性を生かし、本市の魅力を高める拠点づくり

- ・既存市街地の都市再構築、拠点ごとの役割を検討
- ・産業拠点づくり（新たな産業用地、働く場の確保）
- ・景観、自然などの地域特性を生かした、計画的な拠点づくり
- ・安慶名市街地、石川インターチェンジ周辺における交通結節点などの戦略的な拠点づくり

（３）うるま市のもつ骨格・資源の保全活用

- ・本市の都市の豊かさを支える自然資源の保全・活用
- ・本市の都市の特性を支える歴史・文化の保全・活用
- ・本市が有する優良な農地の保全・活用・住環境との調和
- ・地域資源を生かした特色ある良好な景観形成

（４）将来を見据えた都市のマネジメント

- ・どの地域でも住み続けられる、安全・安心なまちづくり
- ・需要と供給のバランスが成り立つ都市施設の計画、運用、維持管理
- ・環境にやさしいまちづくり（SDG s）、スマートシティや ICT など最新技術の活用
- ・市民・事業者との連携による都市マネジメントや付加価値の創出